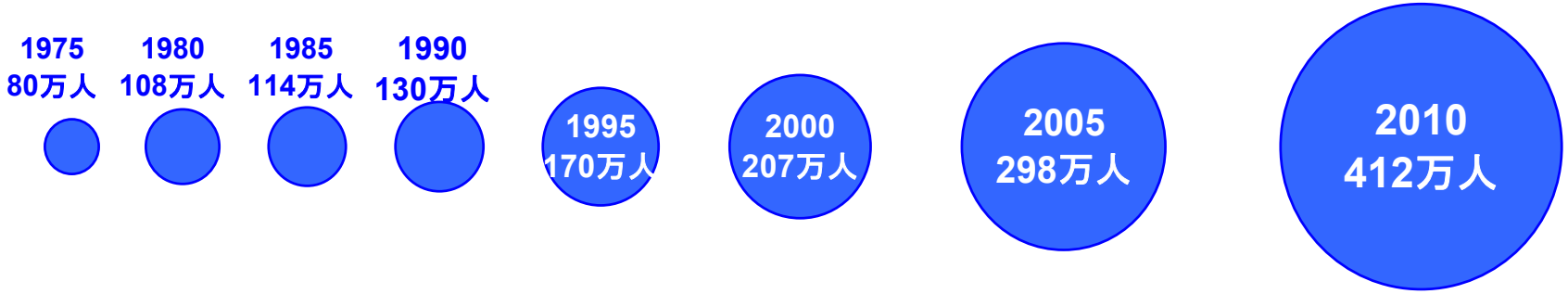
参考資料

我が国の大学の国際化の状況について

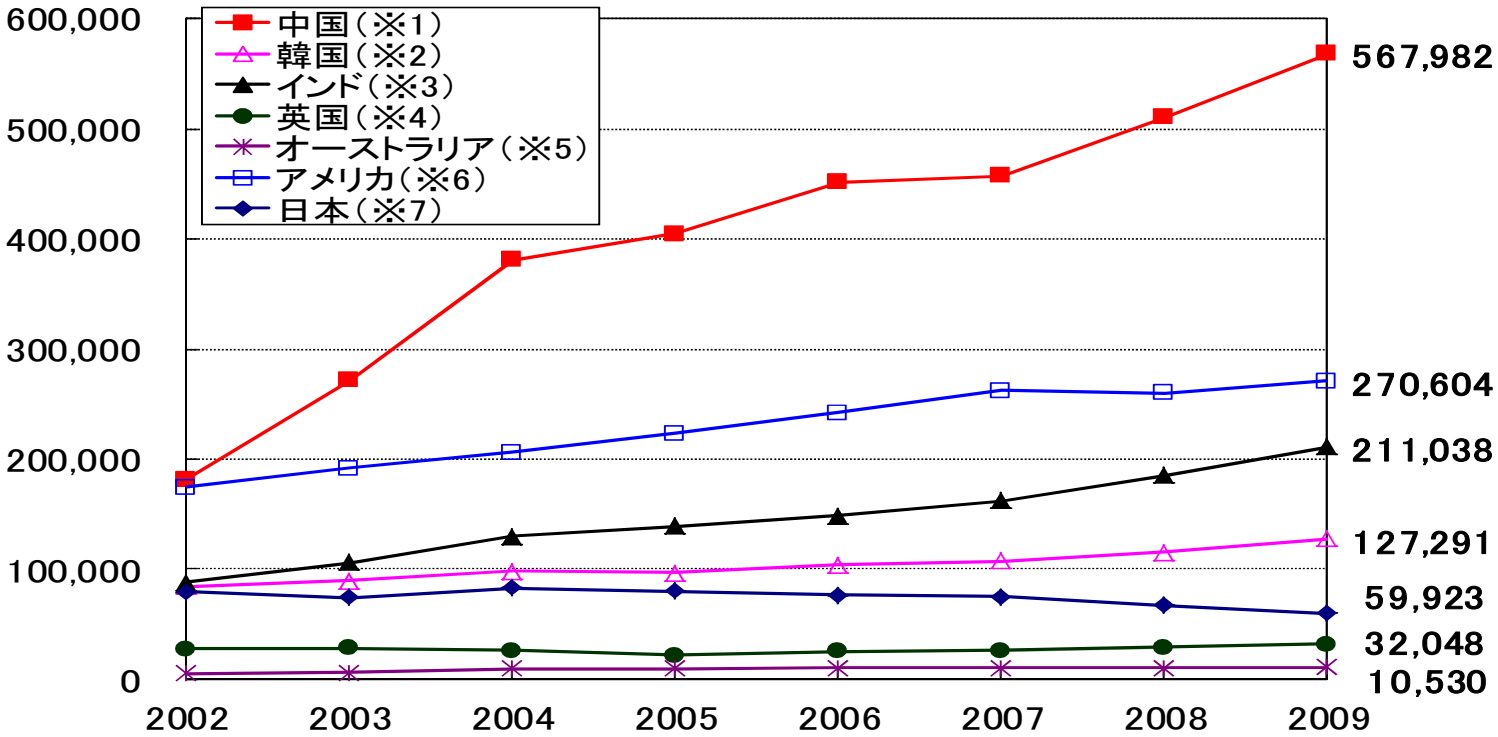
拡大するStudent Mobility

過去30年間で、全世界の留学生数は大幅に増加し、1975年の80万人から2009年の412万人へ、5倍以上の増加



出典：OECD, “Education at a Glance 2012” Box C4.1

各国における学生の海外派遣者数推移

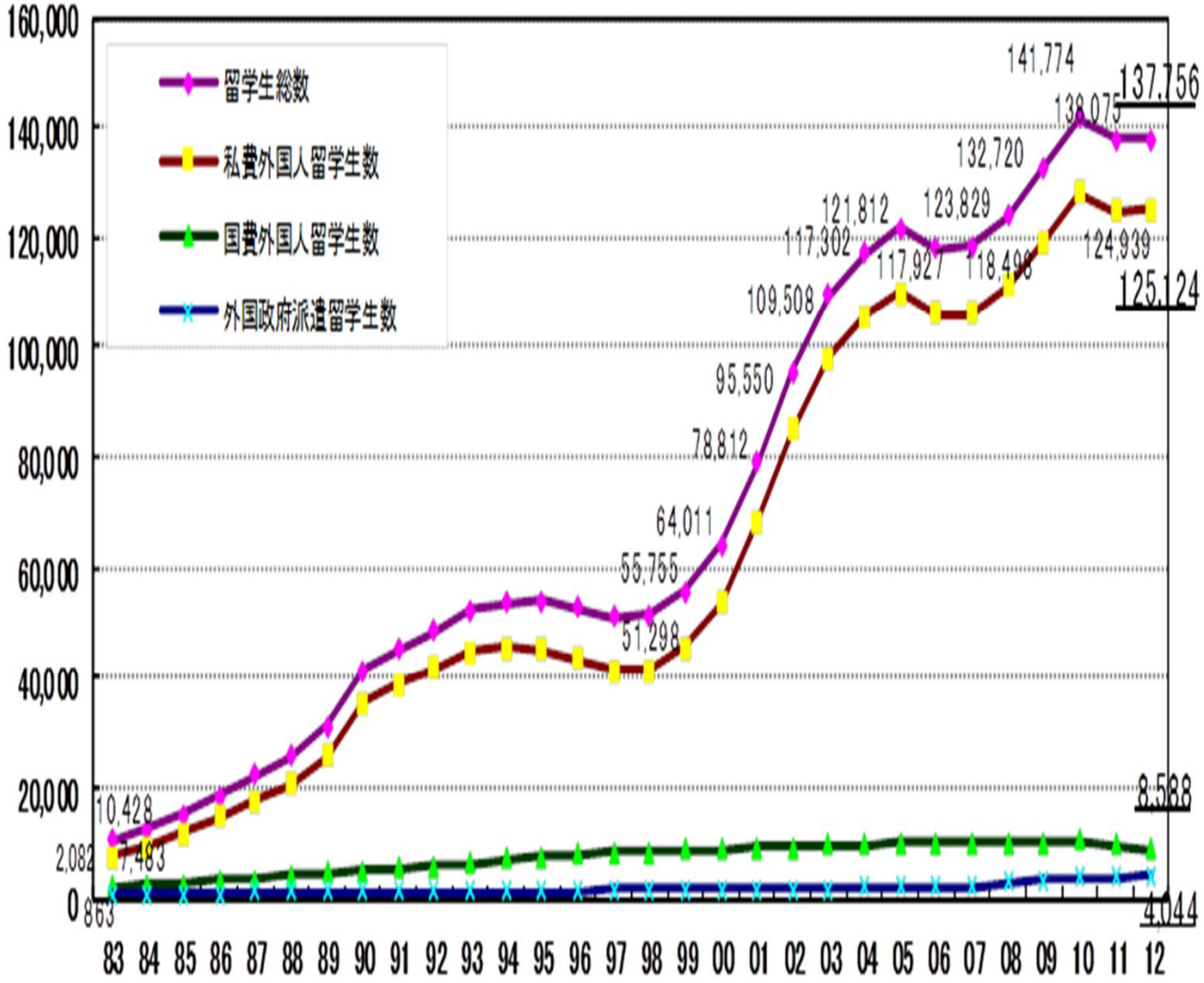


出典）
（※1）～（※5）：OECD「Education at a Glance」
（※6）：IIE「OPEN DOORS」
（※7）：米国はIIE「OPEN DOORS」、中国は中国教育部、その他の国はOECD「Education at a Glance」、UNESCO「Institute for Statistics」

我が国の外国人留学生の受入れの現状

○ 推移

各年5月1日現在



○ 出身国・地域別

平成24年5月1日現在

国・地域名	留学生数	国・地域名	留学生数
中　国	86,324 （62.7%）	インドネシア	2,276 （1.7%）
韓　国	16,651 （12.1%）	タ　イ	2,167 （1.6%）
台　湾	4,617 （3.4%）	米国	2,133 （1.5%）
ベトナム	4,373 （3.2%）	ミャンマー	1,151 （0.8%）
ネパール	2,451 （1.8%）	その他	13,294 （9.7%）
マレーシア	2,319 （1.7%）	合　計	137,756 （100.0%）

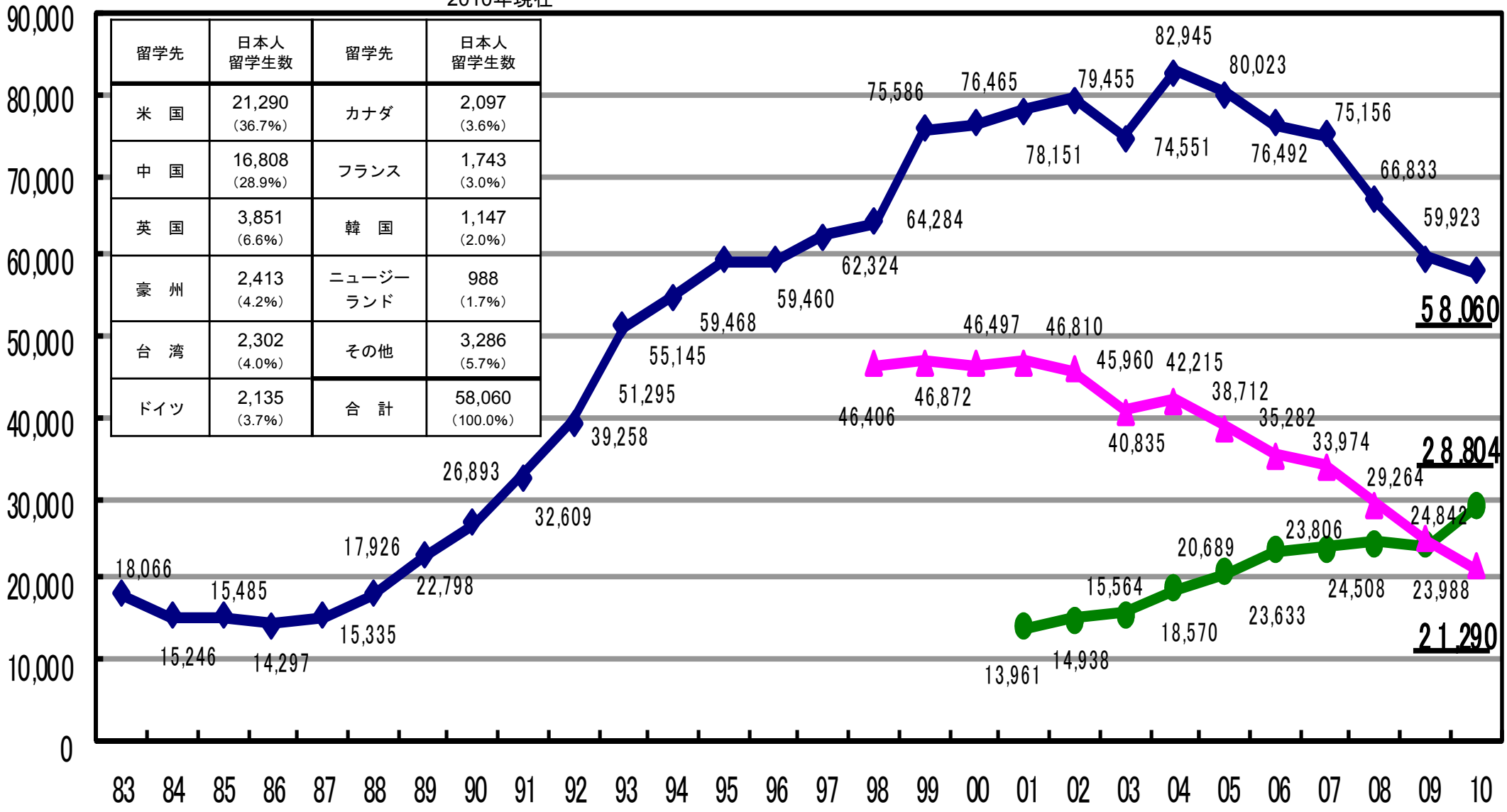
(出典：日本学生支援機構調べ)

日本人学生の海外留学の現状

海外留学する日本人学生数は，2004年の8．3万人をピークに2010年は28%減の6．0万人。米国への減少が著しい。一方交流協定による交流は増加。

2010年現在

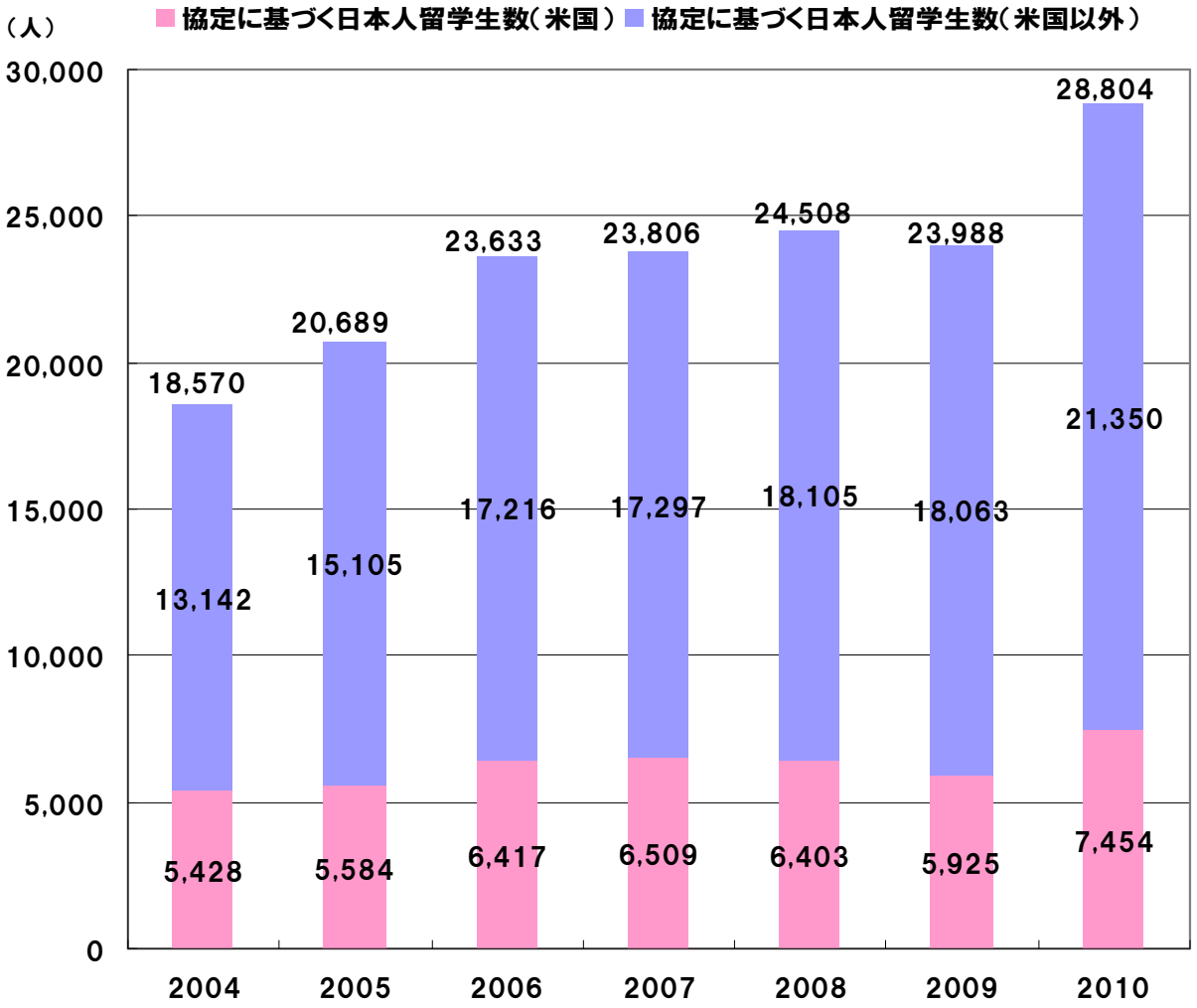
留学先	日本人留学生数	留学先	日本人留学生数
米　国	21,290 (36.7%)	カナダ	2,097 (3.6%)
中　国	16,808 (28.9%)	フランス	1,743 (3.0%)
英　国	3,851 (6.6%)	韓　国	1,147 (2.0%)
豪　州	2,413 (4.2%)	ニュージーランド	988 (1.7%)
台　湾	2,302 (4.0%)	その他	3,286 (5.7%)
ドイツ	2,135 (3.7%)	合　計	58,060 (100.0%)



大学間交流協定の締結状況

日本人の海外留学が減少する中、海外の大学との大学間協定の数は増加しており、協定に基づく日本人学生の留学は増加している。

大学間協定に基づく日本人留学生の留学状況



出典：日本学生支援機構「協定等に基づく日本人留学状況調査」

協定数の推移

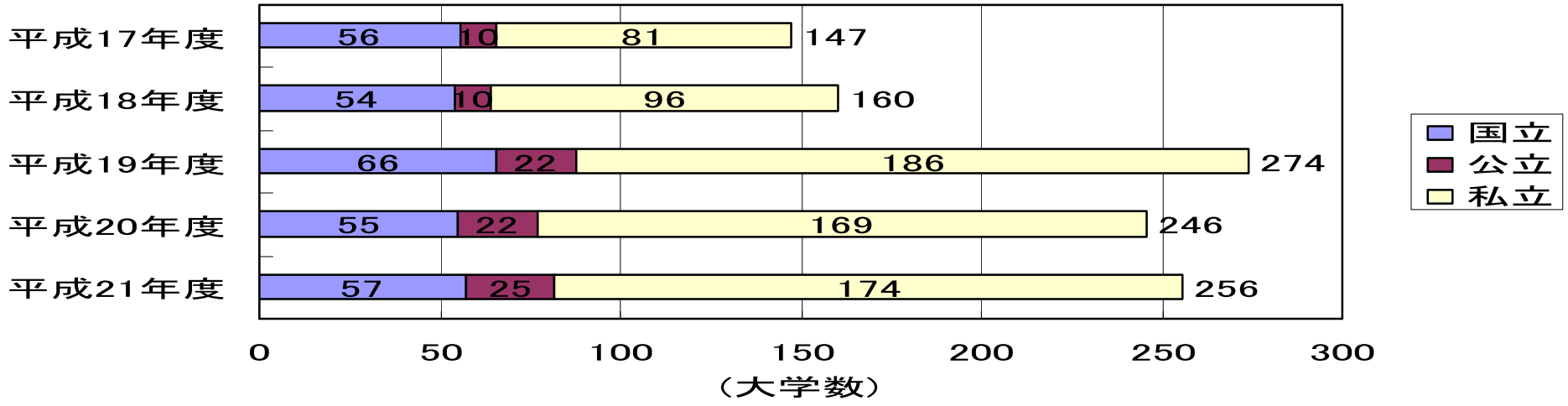
	国立	公立	私立	総数
2007年度	5,407	519	6,914	12,840
2008年度	6,335	600	7,932	14,867
2009年度	7,463	729	8,979	17,171

締結相手国の上位5カ国（2009年度）

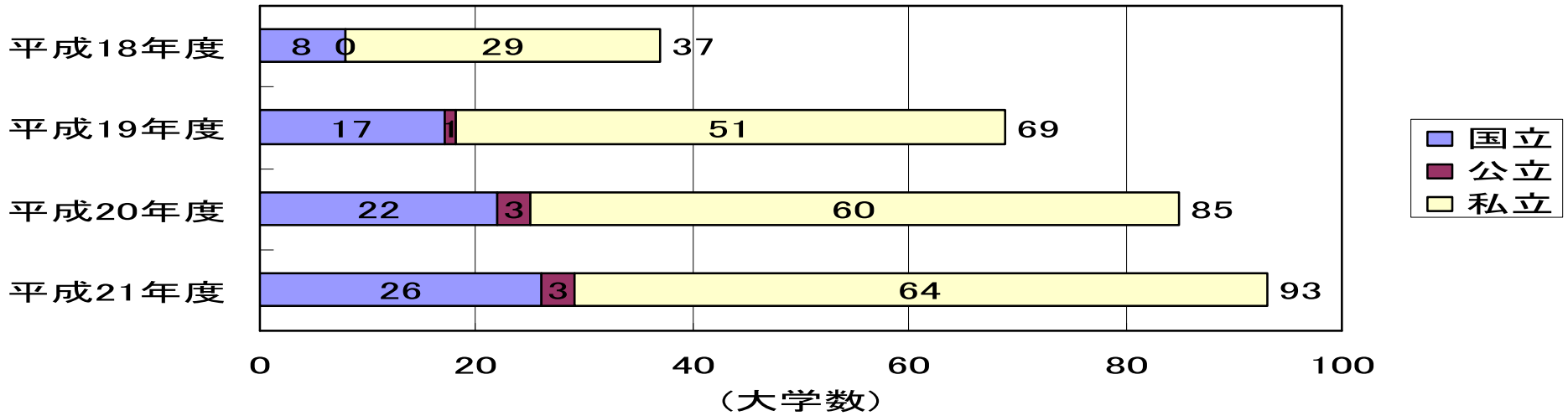
順位	国名	件数	割合（%）
1位	中国	3,373	19.6
2位	米国	2,534	14.8
3位	韓国	1,905	11.1
4位	英国	835	4.9
5位	フランス	754	4.4

我が国の大学の国際化の状況(単位互換、ダブル・ディグリー)

○国外大学等と交流協定に基づく単位互換制度を実施している大学



○国外大学等と交流協定に基づくダブル・ディグリー制度を導入している大学

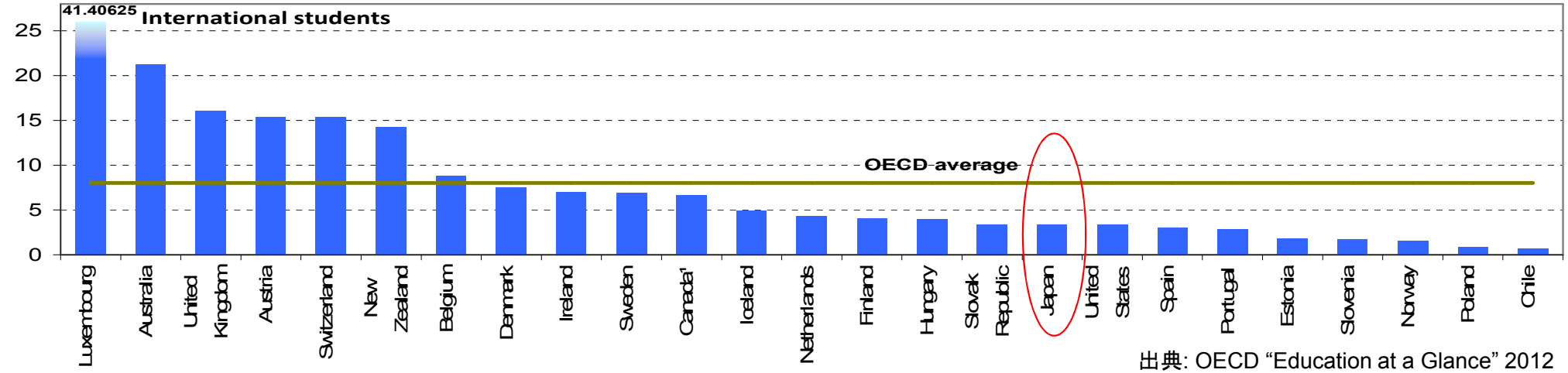


(出典)文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」

諸外国における留学生の占める割合と外国人教員比率の状況

学士・修士課程において留学生が占める割合は、OECD平均は8%であるのに対して、日本は3.7%にとどまる。

○留学生の占める割合



出典: OECD “Education at a Glance” 2012

外国人教員比率は有力大学の多くで20%を超えている。

○先進国における外国人教員数・比率

	日本全体	UCバークレー	MIT	ハーバード	イェール	ケンブリッジ	オックスフォード
全教員数	368,878	1,772	1,522	3,788	2,902	4,090	4,553
外国人教員数	19,196	528	112	1,119	899	1,699	1,775
割合	5.2%	29.8%	7.4%	29.5%	31.0%	41.5%	39.0%

出典:「Times Higher Education - QS World Ranking 2009 Top 100 Universities」QS Quacquarelli Symonds Limited
「学校基本調査(H24度)」

日本人学生の留学に関する主な障害

日本人学生の留学に関する主な障害として、
①就職、②経済、③大学の体制に関することが挙げられている。

※国立大学協会国際交流委員会留学制度の改善に関するワーキング・グループが、各国立大学に対して留学制度の改善に関するアンケートを実施。
※本調査項目には87大学が回答。
※平成19年1月

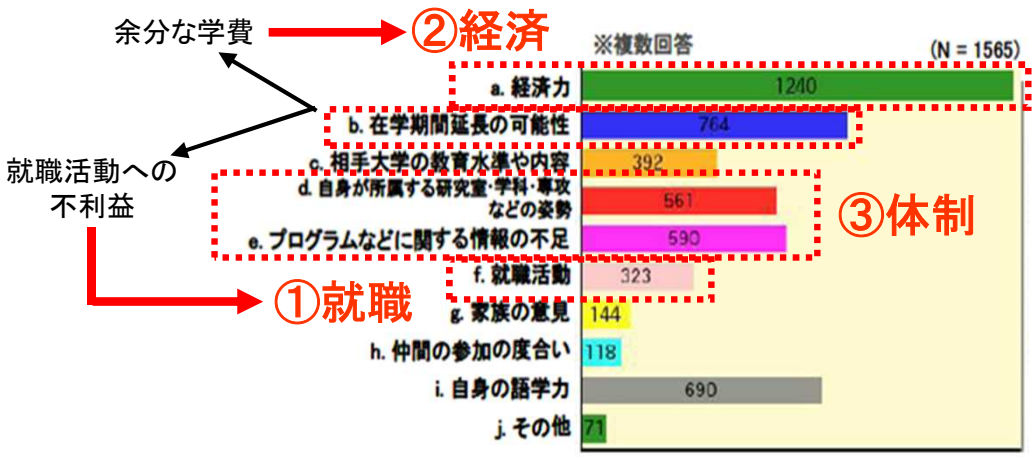
①就職 →
②経済 →
③体制 →

	件数	比率（87大学中）
帰国後、留年する可能性が大きい	59	67.8%
経済的問題で断念する場合が多い	42	48.3%
帰国後の単位認定が困難	32	36.8%
助言教職員の不足	23	26.4%
大学全体としてのバックアップ体制が不備	21	24.1%
先方の受け入れ大学の情報が少ない	9	10.3%
両親、家族の理解が得られない	7	8.0%
指導教員の理解が得られない	3	3.4%
その他	27	31.0%

東京大学の学生を対象とした調査等においても、
これらが障害となっていることが裏付けられている。

海外留学を見送る要因

「東京大学国際化白書」（2009年3月・東京大学）より



大学進学者の留学意向

◇留学したいと思う理由
1位：　自分の視野や考え方を拡げたい　（75%）
2位：　英語（外国語）で会話ができるようになりたい　（74.1%）
6位：　就職の時に役立つ　（34.6%）

◆留学したいと思わない理由
1位：　費用が高いから（費用がかかるから）（47.9%）
2位：　英語（外国語）が苦手だから　（44.3%）
3-5位：　海外治安に不安、日本で勉強できれば十分、
そもそも留学を考えたことがない　（各29%台）

◇希望する留学タイプ
1位：3ヶ月～1年未満　2位：長期休暇を利用　3位：1年以上滞在

2011年7月リクルート社「大学進学者の留学意向」
（高校生の進路選択に関する調査より、有効回答数10,882）

コミュニケーションツールとしての英語の必要性

TOEFLスコア（iBT）の国別ランキングでは、日本は163カ国中137位、アジアの中では30カ国中28位と低位置に甘んじている。

ＴＯＥＦＬ（ｉＢＴ）の国別ランキング

※TOEFL（iBT）は120点満点

＜全体順位＞

順位	国名	TOEFLスコア
1位	オランダ	100
2位	シンガポール	99
3位	オーストリア ベルギー デンマーク	98
・ ・		
70位	韓国	82
・ ・		
102位	中国	77
・ ・		
137位	カメルーン クウェート 日本	69
・ ・		
163位	ガンビア	58

＜アジア内順位＞

順位	国名	TOEFLスコア
1位	シンガポール	99
2位	インド	92
3位	パキスタン	90
・ ・		
7位	韓国	82
・ ・		
14位	中国	77
・ ・		
27位	タジキスタン	70
28位	日本	69
29位	カンボジア	68
30位	ラオス人民民主共和国	66

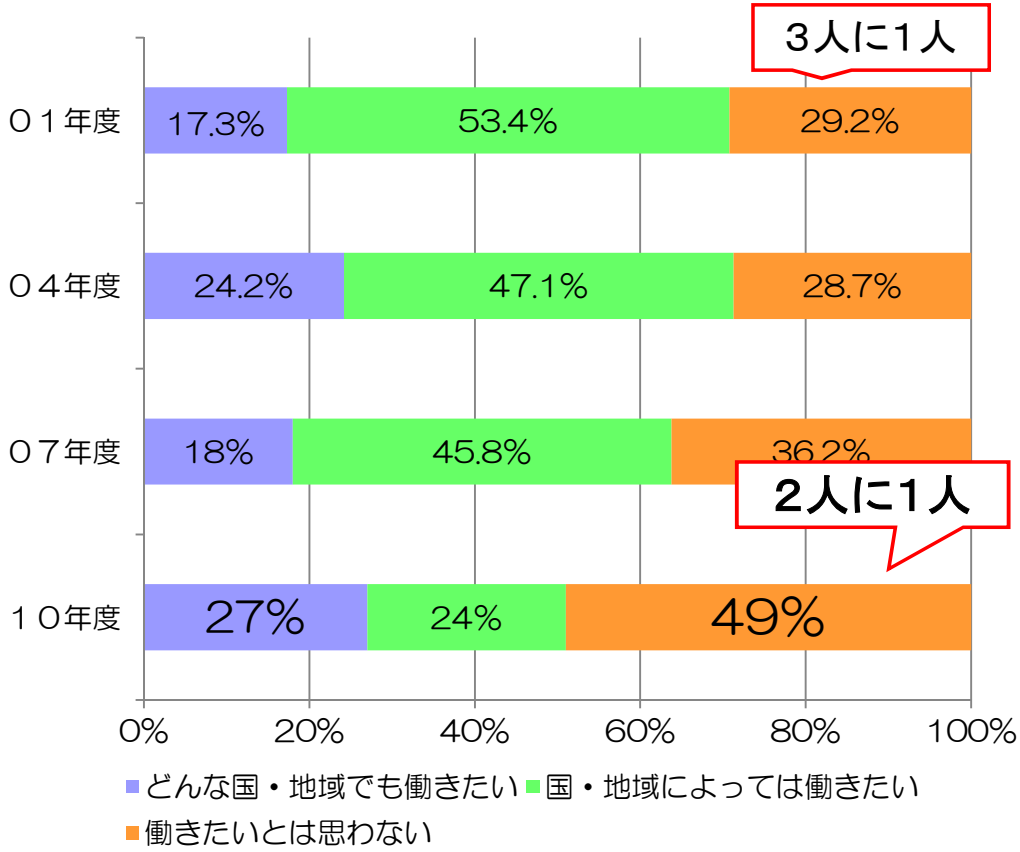
ETS-Test and Score Data Summary for TOEFL Internet-based and Paper-based Tests
JANUARY 2011-DECEMBER 2011 TEST DATA

意識の「内向き」志向

・新入社員のグローバル意識も内向き傾向の指摘。２人に１人は「海外では働きたくない」と考えている。
・20代―30代の海外に対する受容性については、新興国や発展途上国での就労を希望する若者の割合は低い。

新入社員のグローバル意識：二極化？

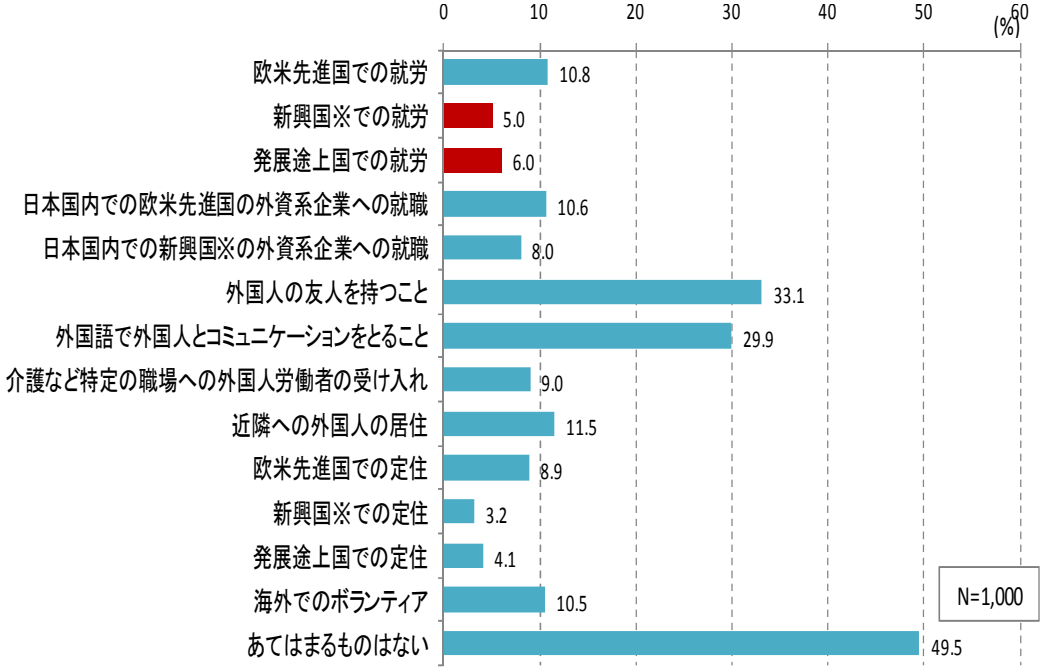
「海外で働きたいと思うか」



出典）学校法人産業能率大学「第4回 新入社員のグローバル意識調査」（2010年7月）

２０代―３０代の海外に対する受容性

あなたは以下のようなことについて取組みたい（前向きに受け止めたい）気持ちはありますか。
次の中からあてはまるものをすべてお知らせください。

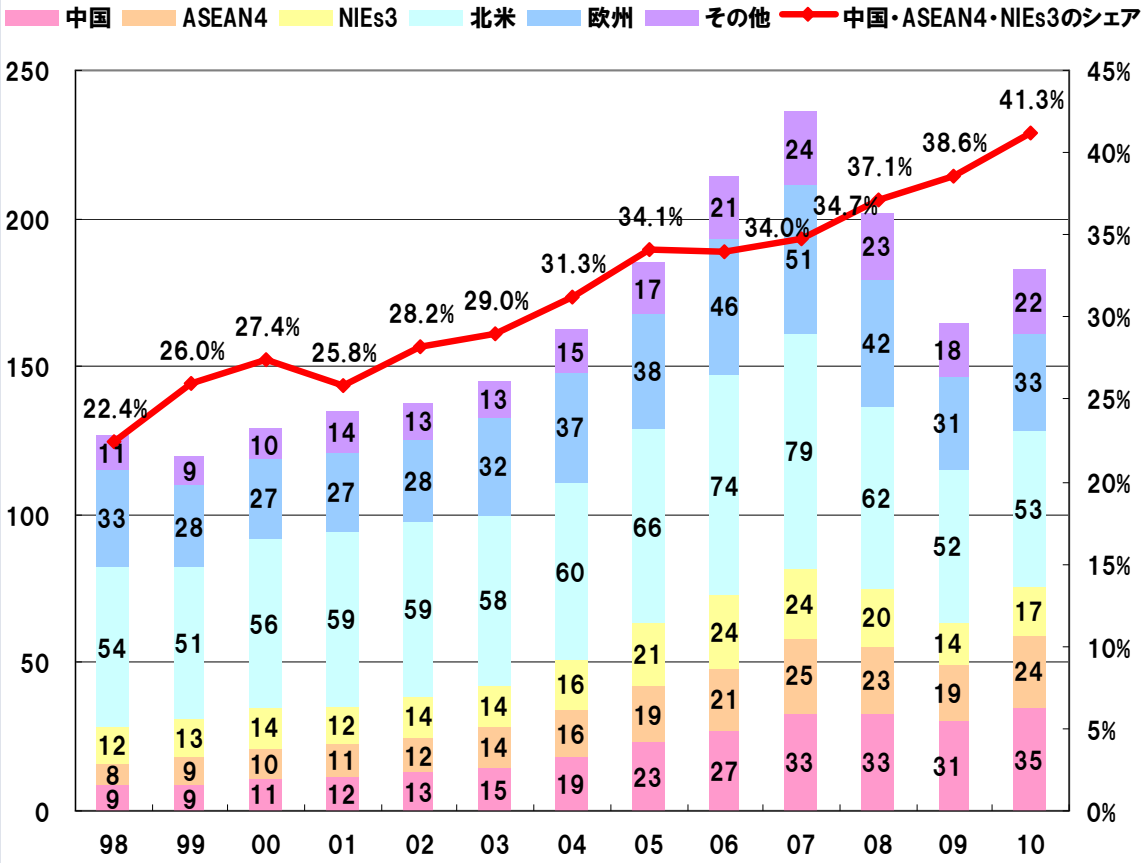


出典：野村総合研究所「若者の生活意識に関するアンケート調査」
注）※「新興国」とは、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）やVISTA（ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチン）等の経済発展している国々

日本企業の海外進出と「グローバル人材」への需要

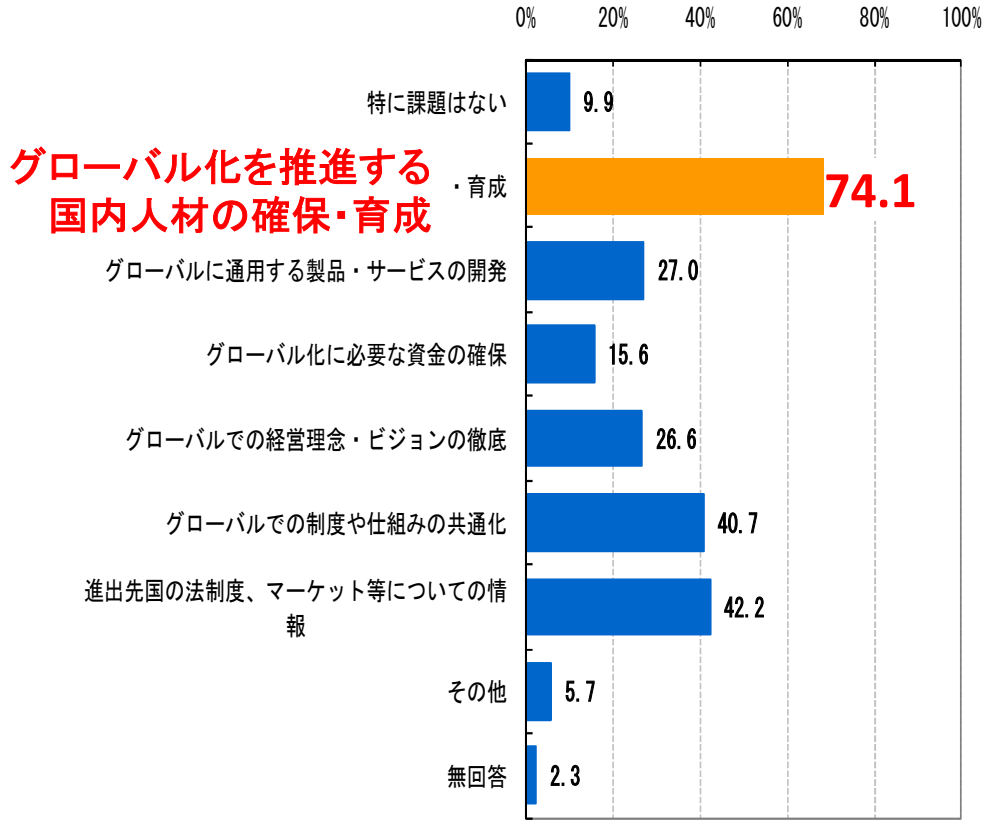
・日本企業の海外現地法人売上高は98年度以降増加傾向を示していたが、リーマンショック後の2年は減少している。また、東アジアマーケットが占める割合は98年度から09年度にかけて19ポイント増加している。
・海外拠点を設置・運営するに当たり、4分の3近い企業が「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」を課題として挙げている。

日本企業の海外売上高及び東アジアマーケットシェアの推移



出典）経済産業省「海外事業活動基本調査」

海外拠点の設置・運営にあたっての課題



出典）経済産業省
「グローバル人材育成に関するアンケート調査」（2010年3月）
アンケート回答企業：259社（上場企業　201社、非上場企業　58社）

世界大学ランキング

様々な世界大学ランキングが存在。
日本の大学は国際化について低評価傾向。教育・研究双方の総合的競争力強化が不可欠。

Times Higher Education「World University Rankings」(2012年10月発表)

順位	(総合評価への寄与度	教育 30.0%	国際 7.5%	産学連携 2.5%	研究 30.0%	論文引用 30.0%)
1	カリフォルニア工科大学	96.3	59.8	95.6	99.4	99.7
2	オックスフォード大学	89.7	88.7	79.8	98.1	95.6
2	スタンフォード大学	95.0	56.6	62.4	98.8	99.3
4	ハーバード大学	94.9	63.7	39.9	98.6	99.2
5	マサチューセッツ工科大学	92.9	81.6	92.9	89.2	99.9
27	東京大学	87.9	27.6	59.0	89.9	71.3
54	京都大学	77.1	26.3	76.4	74.8	57.8
128	東京工業大学	58.0	29.6	65.3	56.1	52.0
137	東北大学	57.7	32.0	80.7	55.6	48.9
147	大阪大学	59.5	23.6	69.6	55.7	46.4

(参照)http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/

【評価指標】
①教育
(研究者による評価、教員当たり学生数　等)
②国際
(外国人教員比率、外国人学生比率　等)
③産学連携
④研究　(研究者による評価 等
⑤論文引用

外国人教員の増加、外国人留学生の受入れ拡大など、大学の徹底した国際化が課題

QS「World University Rankings」(2012年9月発表)

		①:40%	②:10%	③:20%	④:20%	⑤:5%	⑥:5%
1	マサチューセッツ工科大学	100	100	99.3	99.9	86.4	96.5
2	ケンブリッジ大学	100	100	97.0	98.3	98.2	96
3	ハーバード大学	100	100	100	98.6	90.0	78.4
4	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	99.6	95.6	94.0	98.4	96.3	99.9
5	オックスフォード大学	100	100	89.4	100	98.0	95.8
30	東京大学	100	97.6	73.1	89.3	11.1	25.8
35	京都大学	99.8	81.1	70.0	92.6	15.5	21.9
50	大阪大学	91.4	69.6	62.1	91.7	15.4	20.3
65	東京工業大学	76.1	74.5	70.8	79.8	14.3	38.0
75	東北大学	76.4	66.0	54.4	96.8	22.3	25.3
86	名古屋大学	69.5	64.2	68.6	88.0	17.7	29.0

【評価指標】
①世界各国の学者による評価
②世界各国の雇用者による評価
③教員一人あたり論文引用数
④学生一人あたり教員比率
⑤外国人教員比率
⑥留学生比率

(参照)http://www.topuniversities.com/